

港湾空港の工事安全特別講習会を開催

日本埋立浚渫協会は4月19日、東京・霞ヶ関の東海大学校友会館で「港湾空港の工事安全特別講習会」を開きました。国土交通省関東地方整備局に後援いただいた講習会には清水琢三会長をはじめ、協会幹部や会員企業社員など約200人が参加。元東レ合成フィルム（現東レフィルム加工）社長の丹羽三千雄氏を講師に招き「安全はトップの生き方で決まる 安全確保は義務である」をテーマに、4時間半にわたり講演していただきました。

冒頭、清水会長は「港湾・海上工事は気象や海象の影響を受けやすく、潜水などの作業も伴う。建設業界は働き方改革や生産性向上を求められている。現場が変革期にある中で、安全対策をあらためて見つめ直す機会にしてほしい」と参加者に呼び掛けました。

続いて関東地方整備局の高田昌行副局長は「安全なくして生産性向上はないと考えている。この講習会を機に事故ゼロを目指し（受発注者で）気持ちを一つにしたい」と挨拶しました。

丹羽氏は生産現場で長く安全管理活動に携わった経験を基に、安全確保に不可欠な心構えや行動を解説。労働災害の大半は不安全行動が要因であることを踏まえ、安全意識の徹底や活動への情熱などが重要だと参加者に訴えました。



挨拶する清水会長



関東地方整備局の高田副局長



講師の丹羽三千雄氏



講習会の様子